

環境コミュニケーション

環境コミュニケーションについての考え方

環境対応企業として、社員の一人ひとりが環境に対する豊富な知識を持ち、環境問題に対して適切に対応できる環境を整えています。

社員の階層別教育には、最新の環境動向に加えて、環境国際会議や環境マネジメントシステムの重要性などを項目として取り上げています。また、事業所ごとに環境リーダー

を育成。環境資格取得への支援活動や、社内報に「環境コーナー」を設けて、気軽に社内の環境知識を共有できる工夫も行っています。

社外への広報活動としては環境報告書の発行や、インターネット、展示会、講演などを通じた情報開示を積極的に実施しています。

大和川・石川クリーン作戦に参加

大阪府下を流れる大和川と石川では毎年、一般市民が参加して河川敷の斉清掃を行う「大和川・石川クリーン作戦」が開催されています。主催は国土交通省・近畿地方整備局、流域市町村で、参加者が1万5千人を超える大がかりなボランティアイベントです。

今年は3月3日(日)に開催され、当社の泉北工場と本社から有志15名が参加、近隣の小学生や市民など300人以上で、大和川河川敷のごみを拾いました。バイクなど大きな

廃棄物も不法投棄されており、数人がかりで川から引き上げる光景も見られました。水質汚濁が日本でワースト2とされる大和川ですが、主催者の調査によると、数値的には年々改善が見られ、清掃活動が河川の浄化に一役買っているとのこと。



クリーン作戦に参加した従業員

「子供の森計画」を支援

子供たちが「木」の果たす役割について、学習する場を大切にしていきたいと考え、財団法人オイスカを通じて、植林活動「子供の森計画」を支援しています。

子供の森計画は、子供たちの参加による学校単位の新しい森づくり運動です。子供たち自身が、学校の周辺に木を植え、育てていくことで、緑を大切にする気持ちを養いながら、地球の緑化をすすめるプログラムです。

ジャワ島の小学校やリハビリセンターでの植林は

1991年10月から開始され、2001年度5月までの総植林本数は17,364本、植林面積は21.05ヘクタールとなっています。植林作業は、子供たちはもちろん、近隣に住むボランティアの方々も参加して行われています。



「子供の森」計画に参加した子供たち

地域の清掃活動に参加

近隣に立地する企業と共同で社会貢献活動を行うことで、地域振興や、企業間のコミュニケーション、また連帯強化を図ることができます。このため、当社の各事業所では、地域の清掃活動に積極的に取り組んでいます。泉北工場では、泉大津商工会議所泉北4区懇話会に加入し、泉大津市生活環境課の協力を得て、年に1度一斉清掃を実施しています。4区内の企業が、社員を数名派遣し、協力しながら事業所の敷地内や、周辺の道路のごみ集めを行います。2001年度は9月17日、午後3時から清掃が行われました。

また、同地区には環境美化活動の一環として、歩道脇にドラム缶を廃物利用したプランターを設置して、木や花などを植えています。このドラム缶プランター内のごみ集めも実施しました。集めたごみは、燃える物・燃えない物、ビン・缶類に分別して袋詰めを行い、翌日泉大津市に回収していただきました。



周辺道路などを清掃

第三者メッセージ



Profile

嘉田 由紀子氏
京都精華大学人文学部環境社会学科教授、琵琶湖博物館研究顧問

モノからコト、ココロに至る企業活動を

1972年のストックホルム会議では、北の国々の近代化・工業化の中で、地球が環境資源的に限界があることが強くアピールされた。20年後のリオ・デ・ジャネイロでは、21世紀に向けた人類の持続可能な開発の行動計画「アジェンダ21」が採択された。しかし2002年のヨハネスブルグ会議では「アジェンダ21」を行動に移す上での政治的・社会的困難さが浮き彫りにされた。1990年代以降急速に進むグローバル化と人口増加の中で、北の国と南の国の経済格差は拡大し、地球的規模での食料、水、エネルギー、貧困問題の行方はますます混沌としている。そのような中で、企業活動が地球規模での環境保全に占める役割はますます高まっている。クリモ環境報告書では、地域から地球規模までを視野に入れた環境問題の制御に

必要な制度的、技術的、経済的条件をまんべんなくカバーしており、バランスのとれた企業活動の姿をかいま見ることが出来る。特に、21世紀は水の世紀とも言われ、2003年には京都、大阪、滋賀で第3回水フォーラムも開かれ、水への社会的関心が高まりつつある。ただ一言注文をつけさせていただくと、企業理念のところで触られている「安心という価値に応える」という姿勢や「人間社会の幸せを守る」という方向に対して、どのようなソフトな対応をするのが見えないことである。環境と言うと、とすると物質的に制御することのみに意識が奪われがちだ。しかし、実は、人間にとって望ましい環境とはいかなるものか、人類全体の共通した目標はまだまだ見えない。アジアモンスーン地域にある日本は、水の歴史や文化には緻密な知恵と工夫があり、欧米と異なった水文化や水の楽しみ方を知っている。このような日本の文化的個性を企業活動に活かすことが、今、世界における日本の役割とも言えるのではないのでしょうか。人のココロや人びとの楽しみに訴える環境保全活動であってほしい。



Profile

雲川 敦之氏
国連(経済社会理事会)特別諮問資格NGOネットワーク「地球村」

新たなビジョンの基に果敢にチャレンジを

クリモ環境報告書2002年度版を拝見し、御社の企業経営の根幹にある環境に対する配慮や、持続可能な社会を目指す熱意を感じ、大変うれしく感じました。また前年度までは、御社内で完結する環境への取り組みが中心といった感じを受けましたが、本年度は廃棄物削減のための企業ネットワーク作りや、市民と一体となった活動に社員の方々が率先して参加するなど、従来の枠にとらわれず、さらにその繋がりを広げていこうとする姿勢はとて素晴らしいと思いました。ここでさらに望みたいのは、現在の一つひとつの取り組みに対して『本当にそれでいいのだろうか?』という視点でもう一度見直していただきたいということ、市民にも希望を与えるような思いきつ

た施策にチャレンジすることです。例えば、2001年度の御社のCO₂の排出量は、1990年度比 - 16%と目標値を大きくクリアしており、これは私たち市民にとっても大きな希望です。今後もその希望を大きくふくらませるためにも、現在の2008年度マイナス6%という最終目標値が、世界の国々から見て果たして満足いく値であるのか、地球温暖化を抑制するのに十分な値であるのかをもう一度検証し、新たなビジョンの基に果敢にチャレンジしていただければと思います。また環境コミュニケーション活動については、環境に対する知識習得の場、環境改善活動の場で終わるのではなく、なぜ今この活動が必要とされるのか、地球の現状とその根本の原因について企業や社員という立場を超えて、話し合われる場になればと思います。またそれに参加した時の思い・感想などが記載されると、よりいっそう心に響くのではないのでしょうか。

第三者メッセージを受けて

編集方針と対象範囲

「日本の文化的個性を活かした企業活動、人のココロに訴える環境保全活動を」とのご意見、また「新たなビジョンの基でのチャレンジを」とのご意見をいただき、「水」にこだわり続けている当社独自の事業活動を最大限に活かした環境・社会貢献活動の実現、また中期的な目標再検討の必要性を実感しました。2000年2月に制定した栗本環境自主行動計画は、3年に1回見直しを実施することを原則としています。この見直しを早期実現し、今後も自然との共存を目指した事業活動に取り組んでいきたいと思っております。 栗本鐵工所 環境安全衛生室

クリモの企業理念には「水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切に、人間社会のライフラインを守る」との一文があります。この理念を実現するためには、従業員が取り組んでいる環境保全活動について、より多くの方々にご理解、そしてご意見をいただくことが不可欠だとの思いから、本報告書を作成しました。お寄せいただいた声は今後の環境経営、モノづくりへ反映し、社会貢献に努めていきたいと考えています。掲載内容は一部を除き当社の2001年度(2001年4月1日～2002年3月31日)における活動実績で、取り組みや実績データについては、前回報告書で公表した実績との比較が容易になるよう心がけました。対象範囲は本社、支社、支店、工場です。作成に関してはGRIの「持続可能性報告のガイドライン」を一部参照しています。

*GRI(Global Reporting Initiative)は全世界で通用可能な持続可能性報告のガイドラインを策定し、普及させることを目的に1997年に設立された国際組織。「経済的」「環境的」「社会的」の3要素を重視する点が特徴。

クリモ環境報告書2002 発行日/2002年10月発行 発行人/石倉 正勝

本報告書についてのご意見やご質問は下記までご連絡下さい。

株式会社栗本鐵工所(担当:環境安全衛生室 竹中 郁雄)
〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
TEL:(06)6538-7695 FAX:(06)6538-7750

E-mail:i_takenaka@kurimoto.co.jp.
栗本鐵工所ホームページアドレス:http://www.kurimoto.co.jp/
制作協力/株式会社クレアン



環境マスコット「ささら」